

たどつのもかし

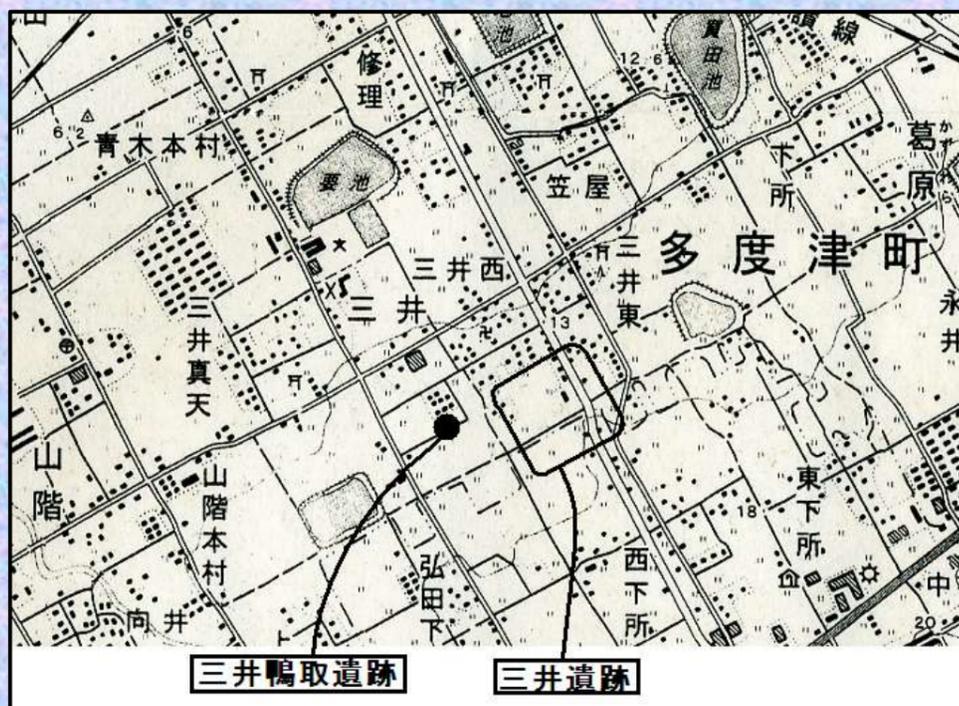
Vol.8 (H25.8.1)

「町内で新たに発見された遺跡：三井鴨取遺跡」

多度津町教育委員会では平成25年度7月に試掘調査を行い、新たに町内で遺跡を発見しました。町内にある遺跡の数は、それまでは古墳や集落、城跡、屋敷跡などを合わせて101か所存在していました。今回の遺跡は102か所目の遺跡となります。

遺跡の名前は「三井鴨取遺跡」。この遺跡は町内の大字「三井」の字「鴨取」という地名にありました。遺跡の名称の多くはこのような、大字や字などを用いて命名されます。

確認された遺構は柱穴です。この柱穴は並んでいるものもあり、柱列や柵列、あるいは数棟の掘立柱建物になるのではないかと考えられます。そしてその建物群は正方位か



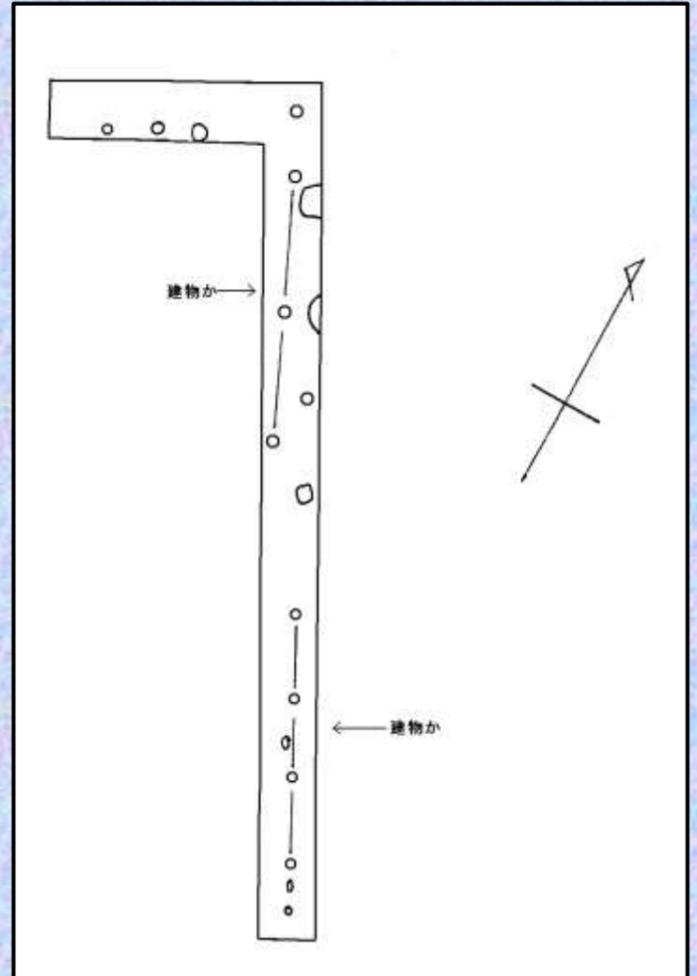
ら約30°西傾しています。これは古代以降の条里地割に沿ったものではないかと考えられるため、およその時期は、古代から中世にかけてではないかと考えています。

ここがどのような遺跡かということについては、出土遺物は用途不明の土製品と、球状の鉄製品の2点のみであるため、そこから遺跡の内容を判断するのは困難です。しかし遺構の様子から、古代以降の耕作地に隣接する集落だったのではないかと考えています。

元々は周辺にある三井遺跡の一部ではないかと考えていました。しかしこの三井遺跡は弥生時代を中心とした遺跡です。三井鴨取遺跡はそれとは遺跡の時代が大きく異なります。そのため、今回新たな遺跡として登録することになりました。今後この周辺で調査することがあれば、さらに詳しくこの遺跡の内容を理解していくことが出来るのではないかと考えています。



柱穴



柱穴の遺構配置図